

幼児教育センターは、就学前から小学校教育へつなぎます。

幼児教育センター

TAKARA 宝っこだより 12

平成30年(2018年)6月

若葉がまぶしかった季節から雨の季節へと、月日によって季節の移り変わりを味わうことができるこの環境は私たち大人はもちろんですが、子どもにとっても大いに魅力ある自然環境です。雨の日を「憂鬱」と感じる人が多いようですが、案外「好き」と感じる人もいます。これも心の持ちようなのでしょう。生活の中で、「苦手」と思い込んでいることも、ずっと肩の力をぬくと、意外に「大丈夫！」だったりするかもしれません。

さて、この雨の日をいかに過ごすかということですが、「雨の音でリラグゼーション」「傘やレインブーツでおしゃれ」「雨にぬれたあじさいの花をめぐる」「屋内で楽しめることを満喫する、読書・DVD鑑賞・手芸・料理・美術館や博物館めぐりなどなど・・・」

ここで気になることがあります。ベネッセの調査によれば、1週間のうち、0～6歳の78.7%の子どもがほとんど毎日テレビを見ており、20.6%の子どもがほとんど毎日スマートフォンに接しているということです。内閣府の10歳未満の子どものインターネット利用に関する実態調査では、1歳児の約1割、2歳児の約3割がスマートフォンを遊び道具にしているとは、本当に驚くべきことです。スマートフォン利用によるブルーライト、睡眠障害など子どもに与える悪影響を考えると心配です。大人もスマートフォンに夢中になれば、親子の関わり方にも弊害が生じます。外出先や保護者の家事の最中など多くの場面で子どもがスマートフォンに接する割合が増加しているようで、雨の日に限らず日常的にこのような状況なのが一層気がかりです。

「幼児期」は、一生のうちで最もいろいろなことを覚え、身に付ける時期であり、人間の行動の基本的なものは幼児期に獲得されると言われています。子どもは好奇心や興味関心のもと「遊び」を通して様々なことを学びます。自主性・協調・共感・役割・責任・他者との関わりなどなど……。家から一歩外に出れば車社会、自然の中で異年齢の仲間と群れあい、存分に体を使って遊びきる場所や機会がどんどん失われつつあります。子どもとの関係性からストレスを感じる保護者も増すだろうと思います。

幼稚園・保育所(園)では、自然を体や心いっぱい感じ、味わうことのできる生活を保障する必要があるのではないのでしょうか。

先のことになりますが・・・

子どもたちの知的好奇心をくすぐる研修会のお知らせです！

テーマ『好奇心から協同的な探究活動へ』

～子どもの発達に応じた好奇心・探究心の育ち～

大阪総合保育大学 児童保育学部 瀧川 光治教授

ぜひ、ご参加ください！！

もうすぐやってくる**11日**にはぜひぜひ、ほめほめシャワーをお願いします！

宝塚市教育委員会 幼児教育センター

TEL：0797-77-2132

